

計 装

コミュニケーション

第55号

2024年8月



計装士会発行

目次

第27回通常総会

通常総会

次第	1
令和5年度 事業報告	2
令和5年度 収支決算書	3
令和6年度 事業計画並びに収支予算（案）	4
代表挨拶	5
来賓挨拶	8

地区活動報告

勉強会

四国地区	（担当幹事：松本 和幸）	15
・ UTPケーブルの取り扱い		

見学会

中国地区	（担当幹事：本坊 和樹）	17
・ キリンビール岡山工場		
近畿地区	（担当幹事：石山 輝英）	21
・ グリコピア神戸		
九州・沖縄地区	（担当幹事：今吉 俊博）	25
・ ひびき灘石炭・バイオマス発電所		

コラム

フライフィッシング	（高砂熱学工業株式会社 吉川 弘信）	29
-----------	--------------------	----

企業紹介・PRコーナー	33
安全標語	35
賛助会名簿	36
幹事名簿	37
入会資格と入会・退会手続きについて	38
計装士会ホームページのお知らせ	39
投稿募集	40

第27回通常総会



総会風景

第27回通常総会は、令和6年4月26日（金）東京・霞が関の霞ヶ関コモンゲート西館 霞山会館ビルにおいて開催されました。

以下の次第により議案の審議を行い、すべて承認されました。

第二十七回計装士会通常総会次第	一、開会の辞
一、代表幹事挨拶	一、議長選出
一、議事録署名人選出	一、議案
一、議案 (一)令和五年度事業報告並びに収支決算の件 令和五年度会計監査報告 (二)令和六年度事業計画並びに収支予算(案)の件	一、新幹事紹介の件
一、閉会の辞	以上

通常総会次第

令和5年度 事業活動報告

令和5年度の計装士会事業活動結果について、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の対応策も5類へ移行したことから、コロナ前への日常再開の機運が一気に広まりました。

当計装士会としても、諸状況を勘案しながら会員皆様の安全・安心を考慮しつつ、各地区幹事及び委員の協力を得て再開に向けて動き出す事ができました事を、先ずは報告致します。

講演会・勉強会・見学会の1件以上を全地区において実施できたことは幸甚でした。

現在会員登録者は2,050名で、内68名の新規加入者を得ることが出来ました。

また、会活動の財政基盤の充実と活動の安定を図るため、各企業に会員の継続および新規加入をお願いしながら、会の趣旨をご理解頂いております。

以下に今期実施した事業内容をご報告致します。

主事業内容

1. 幹事会及び委員長会を開催しました。
 - ・幹事会4回の開催、委員長会6回の開催。
2. 会報「計装コミュニケーション」53号、54号の発行および（一社）日本計装工業会発行機関誌「計装技術」（各会員へ4冊/年）を配布しました。
3. 技術維持講習会場における入会勧誘および会員増強に向けたPR活動を行いました。
4. 地区活動としては、コロナ規制緩和により、各地区に少しずつ再開して頂きました。

実施状況といたしましては

上期に、

- ・関東・甲信越地区 見学会：1件、
- ・中部・北陸地区 勉強会：1件

下期に

- ・東北・北海道地区 見学会：1件
- ・関東・甲信越地区 勉強会：1件
- ・近畿地区 見学会：1件
- ・中国地区 見学会：1件
- ・四国地区 勉強会：1件
- ・九州・沖縄地区 見学会：1件

以上、計8件を各地区幹事様のお忙しい中、ご助力を頂きまして無事実施することが出来ました。

来期は各地区上期、下期に1件ずつを目標に実施したいと考えております。

令和5年度収支決算書

令和5年4月1日より令和6年3月31日まで

I. 収入の部

(単位：円)

事業項目	予算額	決算額	差異 (△は収入超過)	備考
会費 (2,150名 × 3,000円)	6,450,000	5,918,835	531,165	91.76% 3千円：1973名
賛助会費 (60,000円 × 61.0口)	3,660,000	3,600,000	60,000	98.36% 賛助会費・3月まで (60口×60,000円)
雑収入	0	23,062	△23,062	
会費令和5年度前受金 (令和6年度以降分)	0	66,000	△66,000	
前年度繰越金*2	10,160,363	10,160,363	0	
合計(A)	20,270,363	19,768,260	502,103	97.5%

II. 支出の部

(単位：円)



事業項目	予算額	決算額	差異 (△は支出超過)	備考
広報活動費	100,000	18,365	81,635	18.37%
会報・技術資料発行費	1,500,000	904,771	595,229	60.32%
交流・研修・見学会費	3,540,000	1,798,242	1,741,758	50.80%
ホームページ運用費	220,000	92,400	127,600	42.00%
会議費	420,000	230,780	189,220	54.95%
通常総会費	1,800,000	572,609	1,227,391	31.81%
一般管理費	6,830,000	4,979,980	1,850,020	72.91%
(人件費・交通費)	(4,320,000)	(4,262,652)		
(什器備品)	(1,710,000)	(532,561)		
(通信運搬費)	(400,000)	(112,109)		
(雑費)	(400,000)	(72,658)		
予備費	5,860,363		5,860,363	0.00%
合計(B)	20,270,363	8,597,147	11,673,216	42.4%
次期繰越収支差額(C)=(A)-(B)	0	11,171,113	△11,171,113	
支出合計	20,270,363	19,768,260	502,103	

監査報告書

令和5年度予算にかかわる決算の結果について、監査を実施したところ収支決算書に示す通り正確であることを認めます。

令和6年 4月12日

監査

大瀧 学 
別府 明敏 

令和6年度 事業計画並びに収支予算（案）

1. 基本方針

- (1) 全国各地区における会活動の展開
- (2) 会員相互の技術交流と知識向上に向けた活動
- (3) 計装工事の技術伝承活動
- (4) 会報並びに各種技術情報の提供
- (5) 計装士の地位向上に向けた広報活動

2. 事業計画

- (1) 昨年度はコロナ規制緩和により、全国7地区で勉強会・見学会を8件実施いたしました。
今年度はコロナ前の水準を目崎し、各地区と連携して前向きに取り組んでいきます。
- (2) (一社) 日本計装工業会及び賛助会員企業との連携強化により計装技術の情報収集に努めます。
- (3) 本会の趣旨活動内容を広報し、会員の増加と賛助会員の拡充を図り、財政基盤の確立に努めます。
- (4) 会報「計装コミュニケーション」を年2回発行し、(一社) 日本計装工業会発行「計装技術」(年4冊) とともに会員へ配布致します。
- (5) 分かりやすい「計装士会ホームページ」を目指し、リニューアルを行いつつ、常に新しい技術・知識に関する情報提供を促進致します。
- (6) 計装技術の重要性を(一社) 日本計装工業会との連携により広報し、計装士の社会的地位向上に努めます。
計装士会は、これらの活動を通して「社会に応える計装士」の育成に向けて会員の技術・知識向上と人的交流を目指した活動を充実・発展させてまいります。

令和6年度 収支予算（案）

[収入の部]		(単位：円)	[支出の部]		(単位：円)
会費	6,150,000		広報活動費	100,000	
(2,050名×3,000円)			会報・資料発行費	1,500,000	
賛助会費	3,660,000		交流・研修・見学会費	2,270,000	
42社			ホームページ運用費	320,000	
(61口×60,000円)			会議費	370,000	
			通常総会費	1,700,000	
			一般管理費(下記)	5,810,000	
			(人件費・通勤交通費)	(3,840,000)	
			(通勤費・交通費)	(560,000)	
			(通信運搬費)	(350,000)	
			(什器備品及事務用品)	(760,000)	
			(雑費)	(300,000)	
前年度繰越金	11,171,113		予備費	8,911,113	
合計	20,981,113		合計	20,981,113	



代表挨拶

計装士会代表幹事
大脇 剛

総会挨拶

ただ今ご紹介いただきました、代表幹事の大脇です。

本日はご多忙中にも関わらず、また明日からゴールデンウィークで大型連休に突入される人もおられる中、皆様にはご出席頂きまして厚くお礼申し上げます。

昨年は3年間に亘り世界の生活環境を一変させてきた新型コロナも2類相当から5類に移行し、日常生活が戻ってきたことにより、観光客がコロナ以前より増加したニュースなど、社会経済が活発に動き出した年となりました。

当総会におきましても懇親会を昨年まで中止してきましたが、今年は開催の運びとなりました。皆さん、最後までお付き合いをお願いしたいと思います。

さて、2023年度は日常生活が戻ってきたことから、計装士会においては幹事及び各地区委員のご助力により、全地区において諸行事を計画・立案し、それぞれに実施できたことに感謝しております。

後ほど議案の中でご紹介しますが、全地区で実施できたことは、2023年度の成果として皆様にご報告でき幸甚に思います。

また、オンラインによる勉強会等を実施できるよう環境づくり・ホームページの是正など、2022年度に引き続き今年度（2023年度）も更なる充実を実施計画に織り込み、環境整備の是正を行いました。ぜひ計装士会のホームページを一読いただきますようお願い致します。

ホームページに掲示しておりますが、勉強会や見学会においてたくさんの企業様の協力の下、「大変面白かった」、「役に立った」等のご意見も聞こえておりますので、2024年度におきましても「新たな知識や技術の習得」の諸行事を本年度以上に計画し、会員皆様の活発な交流及び技術向上に努めていきたいと思っております。

国内におきましては少子化問題に起因し、どの産業分野におきましても人手不足が深刻になっております。

そういった中で計装業界を含め建設業界におきましては、計装士等の技術者の需要は増え、なお一層に活躍の場が広がっています。

「日本計装工業会」におきまして、今年2月に制度化されました「計装工事技能者」の登録技能者運用が、国土交通大臣からの基準認定を受け、2024年度より開始されます。

計装士会としましても、こういった資格の取得推進施策と歩調を合わせ、計装士各員の地位向上を目指し活動してまいります。

最後に、2024年度におきましてはご提案の計画を推し進めることに注力し、一般社団法人日本計装工業会様及び賛助会員企業様との連携により、会活動の活性化・会員の技術向上に努めてまいりたいと思いますので、引き続きご支援、ご協力をお願い致します。

会員の皆様・賛助会員等関係者様、そして本日ご出席頂いた皆様のご健勝を祈念し、私の挨拶と致します。

懇親会挨拶

ただ今ご紹介いただきました、代表幹事を務めさせて頂いております大脇と申します。

本日はご多忙中にも関わらず、国土交通省 沖川室長はじめ多くのご来賓の皆様にご出席頂きまして厚くお礼申し上げます。

また、当計装士会に日頃よりご理解とご支援を請け賜わりまして改めて厚くお礼を申し上げます。

先ほど開催いたしました第27回通常総会におきまして、全ての議案につきましてご承認頂きました事をご報告申し上げます。誠にありがとうございます。

当会の現状といたしまして、会の趣旨をご理解頂き、会員及び賛助企業様の継続及び新規加入をお願いしておりますが、今年度は新規入会者68名、会員登録者は2050名となっております。また、賛助企業様も42社よりご支援頂いております。

改めてお礼申し上げます。

計装士会は平成9（1997）年3月に設立され、今（2024）年度は28年目を迎えます。

発足当時からの趣旨であります、「全国の計装士が参加し、計装技術の研鑽を目的とした活動」を、今後も継続して実施できるよう、益々の働き掛けを行い、計装士の地位向上に寄与できるよう努めてまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い致します。

また、本年度より「日本計装工業会」におきまして、今年2月に制度化されました「計装工事技能者」の登録技能者運用が、国土交通大臣からの基準認定を受け開始されます。計装士会としましても、日本計装工業会による資格の取得推進施策と歩調を合わせて活動してまいります。

さて、建設業界を取り巻く社会状況は、技術者・技能工の人手不足が深刻に稀有されており、また多くの業界で「働き方改革」など2024年問題として大きくニュースにも取りざたされており、社会問題となっております。

「特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する基本方針」も今年に一部改正が行われ、労働力不足を補おうと施策しておりますが、根本の少子化問題は今後も心配される所です。そういった中で、計装士会としても勉強会等を通して省力化・効率化、情報通信技術（ICT）等の最新技術の取り込み等を行い活動してまいります。

最後に、2024年度におきましても、一般社団法人日本計装工業会様及び賛助会員企業様との連携により、会活動の活性化・会員の技術向上に努めてまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご協力をお願い致します。

懇親会におきましては最後までゆっくと歓談等お願いいたします。

会員の皆様・賛助会員等関係者様、そして本日までご出席頂いた皆様のご健勝を祈念し、私の挨拶と致します。

第27回計装士会通常総会懇親会





来賓挨拶

国土交通省 不動産・建設経済局
専門工事業・建設関連業振興室 室長
沖川 弘毅様

ただ今ご紹介いただきました国土交通省建設市場整備課の沖川と申します。

この組織、大変長い名前でございます、「不動産・建設経済局建設事業整備課専門工事業・建設関連業振興室長」とおそろしく長い。

大変司会者泣かせな名称で、私も自分で説明が難しくて、いろんなところを振興させたいという思いが名前になっております。

こういった専門工事業の方、建設関連業、コンサルとか含めて、振興というのを担当しております。

日ごろから皆様におかれましては、国土交通行政に多大なるご指導ご支援いただいておりますことをこの場で熱く御礼申し上げたいと思います。

私が担当から聞いてきた話ですと、この懇親会は5年ぶりだというふうにかがっております。

ちょうど5年前ということで、先輩がいったいどういうことを話していたのかということを見てみたところ、ちょうど5年前というと、労働基準法の改正が施行されたということでもあります。

そのときはまだ5年あるとっていたのが、今はまさに現実になったというようなところかと思えます。

現状を申し上げます、やはり働き方改革の問題、生産性向上の問題とか、非常に厳しい課題が山積しているというところかと思っております。

やはりその中で、ひとつひとつ、業界の皆様と一緒に、少しでもいい業界を作っていくということでやっていければなと思っております。

計装工事ということで、受注の状況というのを、業界にご協力いただいてデータをとっておりますけれども、ここ最近、手持ちの工事が増えてるなという感じを持っております。

これは計装に限らず、設備工事業全体に見られるところでもあります。

非常に仕事が増えていて、多くの方が期待されているというところなのかなと改めて感じておるところであります。

その中で少しでも事業が円滑に進んでいくように、皆さま最前線でご努力されているところかと思えます。

~~~~~

そういう建設業の担い手の中で、まずは担い手確保というところが待ったなしの課題であると思っています。

最近の話題で申し上げますと、担い手の確保ですとか、物価上昇の変化といったところから、建設業法の改正についても、法案を出させていただいているところであります。

審議は連休明けということになってくるんじゃないかと思えますけれども、こういったことで法改正もやっていくということでありまして、審議のいきなりでありましてとか、適正工期の確保であるとか、そういった法律もやりますけれども、やはり実際の運用のところまでしっかりいきわたらせていくところが必要かと思えます。

これについては、引き続き業界の皆様としっかり連携しながらやっていければと考えているところでございます。

それから、時間外労働の話は先ほど申し上げたとおりでありますけれども、いろいろ見ていると、以前に比べれば時間は減っているんだよと、全体の数字としては出ている。ただやはり個々の工事の延長とか見ていると、それぞれいろいろ課題はあるよねと、いろいろな業界団体の方からお聞きをするところであります。

そういったところについても、しっかり寄り添って対応できるようにということで、国土交通省としても、先般、補正予算で少しモデル事業に対する支援措置みたいなものをつけたり、できるだけ現場に近い形で、少しでも課題解決に適用できないかということと、やっているところでございます。

そういったことも含めてしっかりやっていければと思っております。

それから、最近の話題でもう一ついうと、建設キャリアアップシステムの関係で、能力評価の基準に計装工事が追加されたというところでございます。

これもせっかく作ったということでもありますので、ぜひご活用いただければと思っております。

私どもとしても、皆さまの処遇改善につながるように取り組みを進めていくということが、我々にもかかわることだと思っておりますので、引き続き業界の皆様と一緒に取り組んでいければと思っております。

計装技術の関係で、先ほども仕事量は大変増えているんじゃないかという話をしましたけれども、技術の進展が目覚ましい最先端の分野でありまして、そういった中で、計装士会の皆様におかれましては、日頃より会員の皆様に、最新技術の提供を行ったりとか、研修会・見学会を開催するといった形で、計装士の育成といったところに取り組まれていると承知をしております。

こうした取り組みを引き続き推進していただいて、計装技術のよりいっそうの発展にご尽力いただくようお願いできればと思っております。

結びになりますけれども、計装士会のますますのご発展と、ここにお集まりの皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

# 第27回計装士会通常総会懇親会





## 来賓挨拶

一般社団法人日本計装工業会 専務理事  
大澤 昭敏様

計装工業会専務理事、大澤でございます。

本日は第27回の計装士会を滞りなく行われたというご報告いただきまして、また、その後の懇親会も2019年からはばらくお休みされていたということですが、今回このようににぎやかに開催できますことを、心から感謝を申し上げます。

また、今日、国土交通省より沖川室長、入交企画専門官と、いつもお世話になっているこのお二人をお招きできたことは、当工業会としても大変ありがたく、合わせて御礼申し上げたいと思います。

日頃より、計装士会の皆様、大変お世話になっておりまして、後回しでご紹介させていただこうかなと思っておりますけれども、先ほど2019年以来、懇親会が滞っていたということで、コロナ禍が終わって、外に出る機会も増えまして、私どもも今まで国交省におうかがいするときに、あまり来てほしくなさそうなお話が醸し出されていたのであまりおうかがいしなかったのですが、去年は先ほど室長からもお話がありましたとおり、能力評価とか基幹技能者の講習の関係でお邪魔する機会もございます。

そういったとき、名刺を皆さんにお配りする中で、名刺の中で私どもAJIIという、AJII標準とか技術投資もございまして、Association of Japan Instrumentation Industryという、1つ目のIのところ、昔の計装士の審査員長だったサワイ先生という方が、アメリカの計装技術のところから持ってきた言葉ということで、そもそも作曲家が音楽を奏でるときに器楽、器具使って鳴らすときのいい効果を出すためにそういう言葉を使ったものが、ころがりころがり計装工事の機械を投入することによって、より安全性とか快適性とか生産性の向上とか、そういうものを作り出すということでその言葉を使ったということが計装工業会のパンフレットに書いてあったということでございます。

初代の計装士試験の委員長の時からの言葉ということで、今も昔も安全性とか生産性の向上とか代えがたいものなのかなと思っております。

そんなような中で、そういう事業、あるいは技術を担っていただいている計装士会の皆さん、計装士の資格をお持ちの皆様方には、今後とも、先ほど室長からもお話がありましたとおり、講習制度とか能力評価も進む中でありまして、また、所管の事業の中で計装士の講習会を行ったり、あるいはそれ以外の事業委員会でも多くの計装士の皆さん

のご参加いただいておりますので、引き続きまして、スキルを私どもにお貸しいただきますようお願い申し上げます。

長くなると、ビールも温かくなってしまいますので、このくらいで終わりにさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

## 第27回計装士会通常総会懇親会







## 来賓挨拶

株式会社ネットアルファ 専務取締役  
横野 泰様

ただ今ご紹介いただきました横野でございます。

ネットアルファという社名でご紹介をいただきましたが、元きんでんでございます。

きんでんの中では、計装通信を業務としておりました。

今日は計装士会の総会約20分、質疑応答もありまして20分で滞りなく終わられたといふことで安堵しているところでございます。

その計装士ですが、会員が2000名を超えたと、2050というお話が先ほどありました。

2000名を超えたということは、一つのエポックを超えたんではないかというふうに思っております。

今までも幹事の皆様、地区幹事の皆様方がそれぞれ力を合わせて、勉強会・見学会等を開催されております。

そこへ少しずつでも多くの方々に参加をしていただいて、自己研鑽に励むとともに、明日の計装工事は何をすべきなのかというようなことを常に思っていたいただければと思います。

また、昨年度は、登録基幹技能者認定をいただきましてありがとうございます。

この認定については、計装士、もともとは主任技術者となり得るのは、電気工事・管工事、この2つでした。

登録基幹技能者になりますと、それぞれ1年以上の実務経験は必要になりますが、電気・管・電気通信・機械器具設置、この4つの主任技術者となりうるということになります。

ここで重要なことは、計装と電気通信、これは切っても切れない流れにある。この繋がりが持てるようになったというのは、計装工業会のご努力もありますし、監督官庁の皆様方のご支援もありまして、非常に計装士としては力強い認定だというように私も思っております。

といった私もなんでこんな話ができるかといいますと、きんでんの中に約30年おりました。

私自身は400ボルト以上の電気を扱ったことがありません。

電気工事の会社で、高圧・特高を使ったことのない人間は数少ないと思います。

ただ私自身は、プラントの計装から始まり、情報通信、ネットワーク、情報ネットワー

---

ク、コンピュータといったところばかりを業務としておりまして、現在も情報通信と危機管理のセキュリティ、これのコンサルタントの口奏を業務としております。

そういったきんでのうちの異端児の私が、この計装士が電気通信を認定いただいたというのは非常のうれしく思っております。

そういったことで、これが重要だということはこの先2年、3年、5年と経っていくうちに、計装と通信が切り離せないというようなことが、皆様方もよく認識されると思いますので、非常に大きなエポックになる

ということで今回は2000人を越えたということと、登録基幹技能者と、この2つのこととお話したかったということでもあります。

ビールもそろそろ準備ができていますので、ここにお集まりの皆様方のいやさか、それと計装士会の発展、それに加えて工業会の発展を祈念しまして、声高らかに乾杯をお願いしたいと思います。



## 四国地区 勉強会報告

四国地区担当幹事 松本 和幸

実施日：令和6年2月14日（水）14:00～16:30

場 所：レクザムホール 大ホール棟5階 第2会議室

テーマ：『UTPケーブル（非シールド対撚り線）の取扱い』

講 師：槇野 泰氏（株式会社 ネットアルファ 常務取締役）小西 治彦氏（全国情報配線技能士会 理事）

主 催：計装士会

参加者：15名

四国地区では、令和5年度下期の地区活動として、2月14日に勉強会を開催いたしました。以下に概要を報告いたします。

### 講習内容

テーマ：『UTPケーブル（非シールド対撚り線）の取扱い』

下記の5つの話題に分け、UTPケーブルの種類・構造、カテゴリ別UTPケーブルの仕様、UTPケーブルの保管・敷設、UTPケーブルの成端処理方法、UTPケーブルの試験・測定方法について、専門的な見地から丁寧に解説、ご教授いただきました。

- ①UTPケーブル概要
- ②UTPケーブルのカテゴリ
- ③UTPケーブル保管・敷設の注意点
- ④UTPケーブルの成端処理
- ⑤UTPケーブルの試験・測定

### 所感

今回は、『UTPケーブル（非シールド対撚り線）の取扱い』と題して、UTPケーブル構造やカテゴリ別のケーブル仕様等をご紹介いただくとともに、ケーブル成端処理ではメーカー毎に使用工具が異なる等の注意点、ケーブルの導通試験では試験方法等について映像、実技を交えながら、貴重なお話を聞かせて頂き、大変勉強になりました。ご多忙中にもかかわらず、講師としてご説明・ご解説を頂きました槇野様、小西様両名に厚く御礼申し上げますとともに、ご参加頂いた皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



榎野講師



小西講師



勉強会の様子

【執筆者紹介】

松本 和幸 (まつもと かずゆき)  
四国計測工業 株式会社  
エネルギー・環境事業本部 電気計装部

# 中国地区 見学会報告

中国地区担当幹事 本坊 和樹

日 時：2024年1月26日（金）

見学施設：キリンビール岡山工場 岡山市東区瀬戸町万富678

参加者数：13名

## 1. はじめに

コロナ収束の兆しが見え始め、私たちも少しずつコロナ前の日常を取り戻して来ました。経済活動の活性化に向けつつも、引き続き感染予防に努めましょう。

今回、中国地区見学会を計画し岡山県岡山市のキリンビール岡山工場を訪問しました。

## 2. 工場見学の概要



キリンビール岡山工場

ツアー名称：工場だけの特別体験。キリン一番搾り おいしさ実感ツアー

見学スタート時間：10:00～15:00

所要時間：約75分（工場見学50分、テイスティング時間25分）

定 員：最大25名

参加費：有料1人500円（20歳以上の方）

休館日：月曜日（祝日の場合は営業して翌平日）、年末年始、臨時休館あり

### 3. 工場見学

まずオープニングで臨場感あふれる「キリンのイノベーションの歴史と一番搾り」映像の上映や、キリンが目指す理想のビールについて、味の最高責任者であるマスターブリューワーからの紹介がありました。



次に大麦畑やホップ畑の視覚や聴覚に訴える動画を見ながら、麦芽の試食やホップの香りを体験することが出来て、ビールへの関心が深まりました。



試食した麦芽



ホップの試料

工場見学専用バス「キリンちゃん号」に乗って構内を移動し、次の場所で仕込み～麦汁～発酵～パッケージングの工程を見学しました。

麦汁の体験では一番搾りと二番搾りの利き比べを体験しました。発酵していないのでアルコールはありませんが、ビールとは思えないほどの甘い味わいでとても飲みやすい印象を受けました。



パッケージング工程とは、出来上がったビールを容器に詰める工程で、当日はあいにく生産調整の為稼働はしていませんでした。実際稼働しているときには、350ml缶だと1分間に2,000本もビールを詰めることが出来るそうです。

#### — パッケージングライン



目の前を流れる大量の缶ビール。まるで自分が製造ラインに潜入したかのような迫力とスピード感が体感できる

生産ラインには、配管や制御盤等が事細かく配置されており、全自動化されて作業員は見受けられませんでした。

工場見学の最後にはテイスティングの時間があり、麒麟の社内資格であるブルワリードラフトマスターの方に特製のグラスにビールを注いでもらい絶妙な味わいを楽しむことが出来ました。

— 試飲タイム



ツアーの最後は、「キリン一番搾り生ビール」を含む3種類の「一番搾りシリーズ」を飲み比べ。庭園を臨むテラス席も

#### 4. 見学を終えて

今回、中国地区見学会を4年ぶり実施し無事に終了することができました。

見学会の参加に際しキリンビール岡山工場の皆様には丁寧な説明をしていただき、心より感謝申し上げます。



#### 【執筆者紹介】

本坊 和樹（ほんぼう かずき）

株式会社 中電工  
技術本部 企画技術部





# 近畿地区 見学会報告

近畿地区担当幹事 石山 輝英

実施日：令和6年2月15日（木）10：00～17：00

見学施設：グリコピア神戸

所在地：神戸市西区高塚台7丁目1番

見学内容：施設の概要説明

：ガイド付見学ツアー

主催：計装士会

参加者：13名

## 1. はじめに

令和5年度近畿地区の活動として、2月15日に上記見学会を開催しましたので、以下に概要を報告いたします。

## 2. グリコピア神戸

### (1) 見学施設概要

江崎グリコ株式会社は、生産子会社である関西グリコ株式会社神戸ファクトリー内に『グリコピア神戸』を工場見学施設として設立しています。

本工場は、「ポッキー」「プリッツ」「ビスコ」などを製造する菓子製品の主力工場です。当工場見学施設は、グリコのことをもっと知ってもらいたい、お菓子のことを「見る、学ぶ、楽しむ」を体感できる企業文化施設として開館いたしました。

- ・創業開始：1988年
- ・敷地面積：1,650平方メートル
- ・製造品目：ポッキー、プリッツ、ビスコなどの菓子製品



グリコピア神戸

(2) ガイド付見学ツアー

《ウェルカムホール》

始めにシアター室に案内されムービーが上映されました。

100インチの大画面で、江崎グリコの「創意工夫」を理解してもらう映像と、チョコレートに詳しくなる「チョコレートの世界」が紹介され興味深い内容でした。

また、「エントランス」では高さ3mの「巨大ポッキー形トンネル」が現れます。こちらのトンネルをくぐると工場見学がスタートします。



ポッキー形トンネル【外部】



ポッキー形トンネル【内部】

《プリッツファクトリー》

「ポッキー」、「プリッツ」の製造および梱包するまでの生産ラインをじっくりと見学しました。また、人の手は加わっておらず、完全オートメーション（自動化）での生産ラインです。



施設概要説明 風景

STEP.1

《ポッキー製造および梱包作業》

ポッキーにチョコを付けるところは、企業秘密で見られませんがCGで再現したイメー

ジ映像で確認できました。

また、袋詰めされたポッキーがベルトコンベヤで次々と運ばれ、機械式アームで規則正しく段ボール箱に詰めて梱包されます。



ポッキー製造工程（グリコピア神戸 HPより）

## STEP.2

### 《チョコ貯蔵タンク》

ガーナやエクアドル産カカオと油脂、砂糖でじっくりと9時間かけて練ります。チョコが冷えて固まらないようにタンクは二重構造になっており、外側には温水が流れています。

## STEP.3

### 《プリッツ製造過程》

小麦粉やバター、油脂、砂糖など計約200キロを約20分間、機械で混ぜて生地をつくります。生地は細く切られ、ベルトコンベヤに乗って長さ25メートルの巨大なオーブンで加熱します。オーブンは220～280度で温度調節しながら綺麗なきつね色に焼いていきます。最後にアルミ製の箱の中で1日冷やした後、味付けをして完成です。



プリッツ製造工程（グリコピア神戸 HPより）

### 《歴史紹介コーナー》

1919年、カキの煮汁に多量のグリコーゲンが含まれることを確かめた創業者・江崎利一氏はグリコーゲンを活用した食品の商品化に着手しました。

チフスにかかった息子に、グリコーゲンを与えることで一命をとりとめた出来事もありこれを世の中に広めたいという思いが強かったようです。



歴代のグリコのお菓子やおまけを展示



集合写真

### 3. おわりに

今回の工場見学は、グリコ製品の歴史、製造工程および写真撮影スポットなど興味が多くものばかりでした。見学会に参加を頂いた皆様にも大変良かったという意見を頂き、有意義な時間を過ごせたと思います。

最後に、江崎グリコ様ならびに関係各所の皆様にご協力いただき、無事に見学会を遂行できたことを厚くお礼申し上げます。

#### 【執筆者紹介】

石山 輝英 (いしやま てるひで)  
株式会社 きんでん  
技術本部 プラント工事事部 プラントチーム



# 九州・沖縄地区施設 見学会報告

九州・沖縄地区担当幹事 今吉 俊博

実施日：2024年3月1日（金）

見学施設：ひびき灘石炭・バイオマス発電所

参加者：15名

## 1. はじめに

九州・沖縄地区の施設見学会は、新型コロナウイルス パンデミックの影響により約4年活動を休止していました。特にパンデミック初期の2019年度は、最新のバイオマス発電所を見学しようと意気込み、ひびき灘石炭・バイオマス発電所に見学を申し込んでいましたが、見学会の直前に新型コロナウイルスの第1波感染拡大が起ったことで見学会を中止することになり、非常に残念な思いをしました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染法上位置づけが5類に意向したことで、施設見学を再開するとともに、中止となったひびき灘石炭・バイオマス発電所への見学会も実現することができ、大変うれしく思います。

## 2. 見学内容

### (1) ひびき灘石炭・バイオマス発電所の概要



写真1 ひびき灘石炭・バイオマス発電所 全景（運営会社パンフレットより）

運 営 会 社：響灘エネルギーパーク合同会社

設 立：2014年7月（運営会社）

所 在 地：福岡県北九州市若松区響町2-7-2

発 電 出 力：112,000kW（発電機端）

燃 料：石炭約70%、木質バイオマス燃料約30%

※熱量ベース。運転状況により割合は変えている。

炉 形 式：微粉炭ボイラ

送電端電圧：66kV

## (2) 発電所の特徴

### ①木質バイオマス燃料を使用

安定した燃料である石炭をベースとし、環境への配慮として木質バイオマス燃料（木質ペレット、木質チップ）を混焼しています。石炭は世界各地に埋蔵されているため、安定供給はもとより化石燃料の中でも経済的に優れています。

一方、二酸化炭素排出量が多いため、この発電所では環境負荷軽減のため燃料の一部に木質バイオマスを使用しています。このバイオマス燃料を使用することにより石炭のみで発電する発電所と比較して、約30%の二酸化炭素排出を抑えられます。

### ②高効率発電

石炭と木質バイオマスの燃焼で発生した熱エネルギーを蒸気として回収し、タービン発電機を回して発電を行っています。その熱効率は標準燃料混合比で約42%に達します。また運転の最適化の結果、現在ではある程度バイオマス燃料の割合を上げて同等の熱効率を維持できるとのことでした。

発電出力の112,000kWは一般家庭約20万世帯分に相当するとのことでした。

### ③環境に配慮した発電所

燃焼ガス中に含まれる窒素酸化物や硫黄酸化物などの有害物質は、最新の排ガス処理装置により除去した後、大気中に放出しています。また、冷却塔では白煙防止装置を設置し、周辺環境への配慮に努めています。

また、電気集じん装置で補修されるフライアッシュの一部は、セメントの原料として有効利用しています。また、排煙脱硫装置で生成される石膏は石膏ボードの原料として利用されています。

## (3) 見学内容

### ①概要説明

プロジェクターを用いて、施設概要、発電フローなどに関して説明頂きました。専門家でなくとも分かり易い言葉を用いて丁寧にご説明頂き、非常に理解し易く大変参考になりました。



写真2 会議室にて概要説明状況

### ②施設見学

煙突よりもくもくと白い排気が立ち上るなど、通常稼働状態の発電所を見学させて頂きました。ボイラ架構、タービン建屋、燃料バンカ、電気集じん機、排水処理設備など稼働中の設備を一通り見学することができました。特にボイラにおいて、微粉炭を噴射・燃焼させるバーナー部分の燃焼状態をボイラの小窓より直接覗けた事が印象深かったです。



写真3 ボイラ架構 屋上にて集合写真

### ③質疑応答

参加者の方々より様々な内容の質疑をさせて頂きました。皆様積極的に質疑され、皆様のバイオマス発電所への関心が伺えました。

回答もご丁寧に説明頂き、大変よく理解できました。

### 3. おわりに

今回の施設見学会では、4年前に中止となったバイオマス発電所への見学を行いました。近年話題のバイオマス発電所という事で、早々に予定人数に達するなど大変好評な見学会となりました。

今後も、益々発展していく環境関連施設、その他に社会的話題に上っている施設など、皆様が関心をお持ちの施設へ見学会を実施していき、少しでも知見が広がればと思っています。

最後に、今回の見学会にご協力いただいた響灘エネルギーパーク合同会社の方々、計装士会をはじめ関係者の方々に感謝し御礼申し上げます。



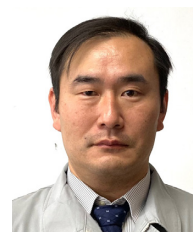
写真4 運営会社玄関前にて集合写真

#### 【執筆者紹介】

今吉 俊博 (いまよし としひろ)

株式会社 九電工

技術本部 電気技術部





# フライフィッシング

高砂熱学工業株式会社

吉川 弘信

## 1. はじめに

私の趣味で、現在まで続いている1つにフライフィッシングがあります。30代前半から始め、もう20年以上経ちます。フライフィッシング暦の一部をご紹介します。

はじめるきっかけはテレビで見たフライフィッシングでした。溪流の綺麗な水で釣りをする。川の中に立ちこんで釣りをするのが気持ちよさそうで、いつかやってみたいという思いがありました。

釣りそのものは小学生の頃から親しんでいました。生まれが埼玉県蓮田市というところで、元荒川、綾瀬川という2つの川流れており中流域であったため、コイ、フナなどを釣りしていた時期がありました。ミミズや練り餌などのエサで釣っていたのを覚えています。

## 2. フライフィッシング

社会人になり、仕事の同僚でフライフィッシングをやっているN氏に頼み込んでフライフィッシングの手ほどきを受けました。フライ（毛ばり）は非常に軽いため、釣り糸（ライン）自体の重さと竿のしなりでポイントに運ぶ。そのためキャストイングを習得する事からはじまります。

ラインを前後に振り、勢いと方向性を付け投げる「オーバーヘッドキャスト」、頭上後方までゆっくりロッドを立てた後前に振り、水面をラインが転がるようにして投げる「ロールキャスト」を習得しやっとな溪流釣りデビューの準備が整いました。釣り道具はN氏から借用しました。N氏からいつまで続くか分からないから急いで購入する必要はないという配慮でした。

N氏が最初に連れていってくれた場所は、東京都あきるの市トーマス・ブレイクモア記念社団養沢毛鉤専用釣り場でした。

管理釣り場というところで、自然溪流にイワナ、ヤマメ、ニジマスを放流しており、1日券を購入し釣りをする場所です。管理釣り場にもいろいろなスタイルがあり、自然溪流を岩で区切り魚を放流しているところや、池に魚を放流しているところもあります。養沢毛鉤専用釣り場は自然溪流を利用しているため清涼感、解放感に満ちており、自身が要望していた釣り場でした。ここでいっぱい釣れた事が20年以上続くきっかけとなりました。

※この後、フライフィッシングの道具を1式購入しました。



写真1 養沢毛鉤専用釣り場管理事務所



写真2 入渓して釣りをする筆者。2024/7

### 3. フライタイイング

フライフィッシングの楽しみは投げる、釣る以外に、フライを作る（タイイング）醍醐味があります。自分で作ったフライを魚がエサだと思って食らいつく。これがたまらなく面白いのです。

材料は針と糸、いろいろな鳥の羽や、鹿の毛などです。バイスとよばれる器具で針を固定し、針に毛を巻き付けていきます。

フライは模す虫により材料を変えます。皆さんがフライでイメージするのは羽虫で水面に浮かぶものだと思います。

実はフライは水上を飛ぶ羽虫だけでなく、水生昆虫であったり小魚なども模して作ります。釣り方もフライを水面に落とす、水中を流す、魚や水生昆虫が泳いでいる様に水中を引っ張るなど多様な釣り方があります。



写真3 フライ



写真4 タイピング中



写真5 タイピングの材料と道具

#### 4. ロッドビルディング

凝り性なので、フライロッドも自分の好みに合わせ作った事があります。作るといっても、パーツを購入して組み立てるイメージです。溪流釣りから湖の釣りまでカバーしようとする1本のフライロッドでは足りなくなってきました。長さや固さを釣り場に合わせ用意する事になりますが、完成品を購入すると高額のため自分で作ってしまえば安価になるという思いからです。

##### パーツ

- ・ブランク（竿の棒の部分、2本継ぎ～4本継ぎが多い）  
素材：カーボン、グラスファイバー、竹
- ・ガイド（フライラインが通過する金属のコイル）
- ・コルクグリップ（持つところ）
- ・リールシート（リールを竿に固定する部分）

##### 道具

- ・ロッドモータ  
ガイドをブランクに糸で巻き止めた後、ウレタンでコーティングし乾燥させる際に使用します。
- ・スレッド（糸）  
好みの色を使います。

#### 6. 最後に

溪流釣りの爽快感を求めた事からフライフィッシングを始めましたが、フライフィッシングでもの作りする奥深さも知る事もできました。

最近では老眼のため、毛ばりの穴に糸を通すのが困難になってきていますが、できる限り続けていきたいと思っています。

皆さんも日頃のストレス発散につながる趣味を持たれる事をお勧めします。

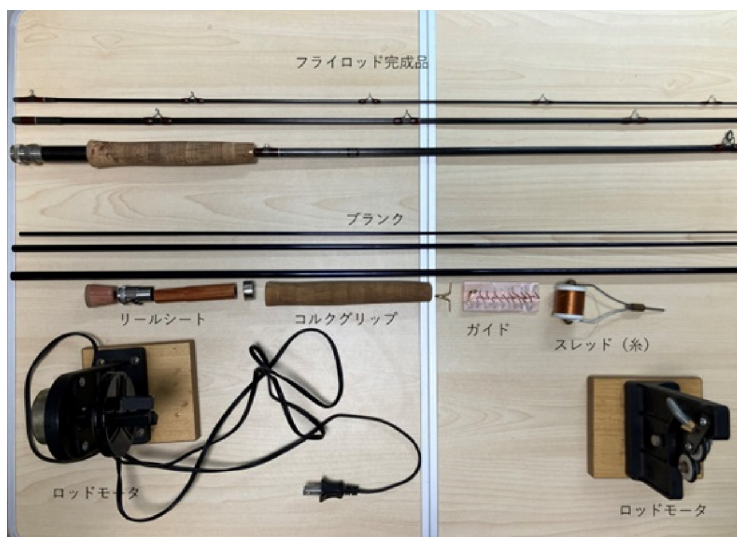


写真6 ロッドビルディングのパーツと道具

【執筆者紹介】

吉川 弘信 (よしかわ ひろのぶ)  
高砂熱学工業株式会社  
東京本店 電気計装部計装技術課





# 建物のいのちをつくる



建設コンセプト  
**DX-OMOYA**

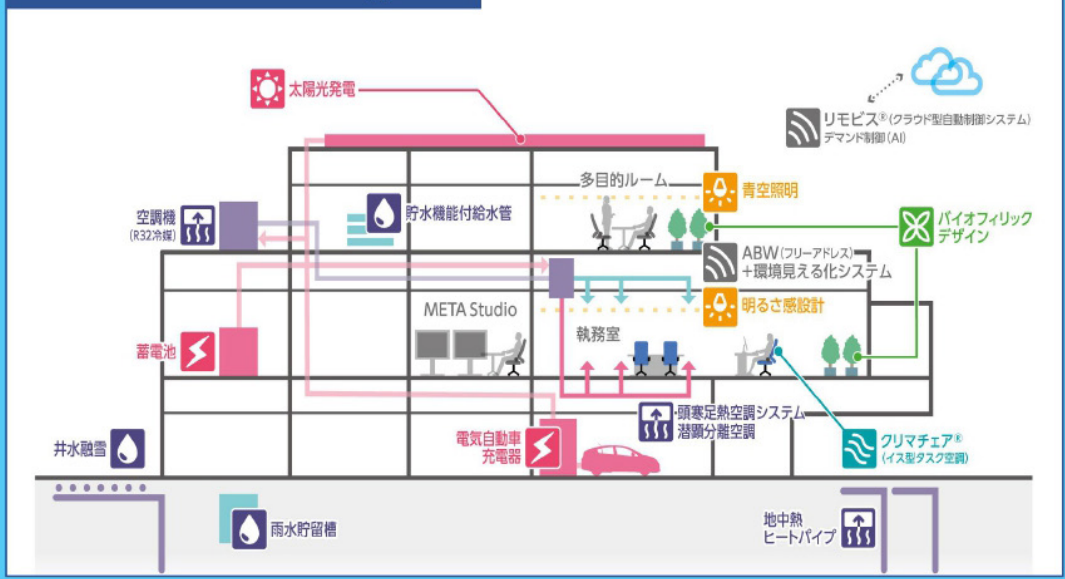
ダイダンは『3つの脱とレジリエンスを「DX」で実現し、新しい働き方を推進するオフィス』をコンセプトとして、ダイダン新潟支店「OMOYA」(母屋)を建設しました。



新潟支店新社屋

- ・ Nearly ZEB認定取得
- ・ CASBEE スマートウェルネスオフィス Sランク取得

## ダイダン新潟支店 Technology MAP



テクノロジーは、加速度的に進化し続ける。  
革新に追随するのではなく、  
巻き起こす側でありつづけるために。  
ひとつの意志のもと、  
強靱なチームとなることが今こそ必要だ。  
一人ひとりが培った技術と専門性を融合しながら、  
未知なるトランスフォーメーションに、  
我々はワンチームで挑んでいく。



「千代田エクスワンエンジニアリング」は、  
千代田工商、千代田システムテクノロジーズ、千代田テクノエースの  
3社の融合から誕生した、総合エンジニアリング会社です。  
千代田化工建設グループの技術×OneTeamで  
トランスフォーメーションに挑んでいく。  
そんな決意を「エクスワン」の社名に込めて、  
急速に変化・多様化するマーケットのニーズや課題を捉えながら、  
お客様が求める変革に、しなやかにお応えしてまいります。

**X-One Transformation  
by One Team**



千代田エクスワンエンジニアリング株式会社

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-13 <https://cxo.chiyodacorp.com>



2024 年度 アイ・ビー・グループ安全衛生スローガン

「一人ひとりが責任者

過去の事例も教訓に

みんなで築く安全意識」

基本方針 「安全衛生活動を徹底し、無事故・無災害を目指す」



(2024 年 5 月開催)

アイ・ビー・テクノス(株)は、1975年8月に設立し今年で50周年を迎えます。

ビルや設備の空調自動制御、および中央監視システムの企画設計・施工・メンテナ

ンスまでを行っています。当社では創業以来「働く人が快適に過ごせる環境づく

り」のために省エネルギー技術を追求し、“地球環境の保全”を目指しています。



## 令和6年度 計装士会賛助会員会社名簿

令和6年8月1日現在  
(五十音順) 42社

|                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| アイ・ビー・テクノス (株)          | 住友電設 (株)             |
| 旭国際テクネイオン (株)           | 第一工業 (株)             |
| アズビル (株) ビルシステムカンパニー    | ダイダン (株)             |
| (株) オーテック               | 太平電業 (株)             |
| (株) 川瀬電気工業所             | 高砂熱学工業 (株)           |
| (株) 関電工                 | (株) 中部プラントサービス       |
| (株) 木内計測                | 千代田エクスワンエンジニアリング (株) |
| (株) 九電工                 | (株) トーエネック           |
| (株) きんでん                | (株) 東京エネシス           |
| 栗原工業 (株)                | 東光電気工事 (株)           |
| (株) クリハラント              | 東テク (株)              |
| 向陽電気工業 (株)              | 東邦電気工業 (株)           |
| 三機工業 (株)                | 東洋熱工業 (株)            |
| (株) 三興                  | 日鉄テックスエンジ (株)        |
| (株) サンテック               | 日本電技 (株)             |
| J-POWERジェネレーションサービス (株) | 日本電設工業 (株)           |
| 四国計測工業 (株)              | (株) 日立プラントサービス       |
| 昭和アステック (株)             | 富士古河E&C (株)          |
| (株) 昭和電業社               | 豊楽興産 (株)             |
| ジョンソンコントロールズ (株)        | (株) ユアテック            |
| 須賀工業 (株)                | 横河ソリューションサービス (株)    |



# 令和6年度 計装士会幹事名簿

令和6年8月1日現在

## (運営幹事)

|             |       |                                      |
|-------------|-------|--------------------------------------|
| 代表幹事        | 大脇 剛  | (株)三興 SKGRコーポレート本部 技術企画・教育センター センター長 |
| 副代表幹事       | 笹生 健司 | (株)きんでん 情報通信本部 情報通信技術部 技監            |
| 企画・研修委員(長)  | 島崎 真  | ダイダグン(株) 東京本社 設計部 設計第一課 担当部長         |
| 企画・研修委員     | 稲生 充  | 太平電業(株) 工事本部 火力管理部 電装課 課長            |
| 企画・研修委員     | 吉川 弘信 | 高砂熱学工業(株) 東京本店 電気計装部 計装技術課 担当課長      |
| 企画・研修委員     | 吉野 賢治 | 東光電気工事(株) 首都圏東支社 内線第二部 内線第一課 課長      |
| 広報委員(長)     | 阿部 達也 | ジョンソンコントロールズ(株) 購買部 パネル・マテリアル購買Gr長   |
| 広報委員        | 金子 啓市 | (株)関電工 営業統轄本部 プラント設備部 副長             |
| 広報委員(兼務HP)  | 武井 隆司 | アズビル(株)ビルシステムカンパニー 技術本部技術管理 1部管理グループ |
| ホームページ委員(長) | 武井 隆司 | アズビル(株)ビルシステムカンパニー 技術本部技術管理 1部管理グループ |
| 会計・庶務       | 日下 滋  | 千代田エクスワンエンジニアリング(株) 電力・制御プロジェクト本部    |
| 監査          | 別府 明敏 | 旭国際テクネイオン(株) 中国事業所 技術本部              |
| 監査          | 大淵 学  | (株)オーテック 環境システム事業部 技術統括部 参事役         |

## (地区幹事)

|            |       |                                            |
|------------|-------|--------------------------------------------|
| 東北・北海道地区代表 | 鈴木 和彦 | (株)ユアテック エンジニアリング本部 電気設備部 部長兼 プラントグループリーダー |
| 同上業務連絡先    | 松木 哲郎 | (株)ユアテック エンジニアリング本部 電気設備部 プラントグループ課長       |
| 東北・北海道地区   | 川崎 久  | 三機工業(株) 東北支店 建築設備部 部長                      |
| 中部・北陸地区代表  | 森本 将之 | (株)トーエネック 営業本部 営業部 技術提案グループ 課長             |
| 中部・北陸地区    | 本間 隆児 | (株)中部プラントサービス 工事本部 工事総括部 マネージャー            |
| 中部・北陸地区    | 新山 武弥 | アズビル(株)中部支社 サービス本部 中部サービス1部                |
| 近畿地区代表     | 石山 輝英 | (株)きんでん 技術本部 プラント工事部 課長                    |
| 近畿地区       | 大久保精之 | 住友電設(株) 技術本部 技術部 技術課 主席                    |
| 近畿地区       | 秋月 成夫 | ダイダグン(株) 大阪本社 技術管理部 品質課 参与                 |
| 中国地区代表     | 本岡 武志 | (株)中電工 技術企画部 工場工事 担当課長                     |
| 同上業務連絡先    | 土井長昭義 | (株)中電工 技術企画部 工場担当専任課長                      |
| 中国地区       | 宮田 和佳 | 中電プラント(株) 火力部 火力担当マネージャー                   |
| 中国地区       | 高戸 和也 | 高砂熱学工業(株) 中四国支店 技術部 技術生産課 課長               |
| 中国地区       | 末田 仁彦 | アズビル(株)ビルシステムカンパニー 中四国支店 技術部 1グループ マネージャー  |
| 四国地区代表     | 土居 一岳 | 四国計測工業(株) エネルギー・環境事業本部 エネ環境統括部 管理課 管理課長    |
| 四国地区       | 谷本 信人 | (株)四電工 システム技術部 副部長                         |
| 九州・沖縄地区代表  | 今吉 俊博 | (株)九電工 技術本部 電気技術部 電気技術二課 担当課長              |
| 九州・沖縄地区    | 松原 正義 | 高砂熱学工業(株) 九州支店 営業部 設計課 課長                  |
| 九州・沖縄地区    | 山路 鉄次 | アズビル(株) 九州支店 サービス本部 九州サービス部 安全マイスター        |

# 入会資格と入会・退会等手続きについて

計装士会 事務局

## 1. 入会資格

計装士会会則の第5条（抜粋）より本会会員は次の者とします。

- (1) 正会員 一般社団法人日本計装工業会が実施する計装士資格試験に合格し、1級・2級計装士の資格を有する者
- (2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の事業を賛助する個人または法人

## 2. 年会費・入会手続き

- (1) 年会費 ・正会員：3,000円/年（入会金なし）、振込手数料は会員負担  
・賛助会員：会費は別規定（確認は事務局まで）
- (2) 入会 ・正会員：当会指定用紙「入会申込み書・住所等変更届はがき」（用紙は事務局まで）  
・賛助会員：別途指定用紙による申込み（用紙は事務局まで）
- (3) 会費納入 ・正会員：「払込取扱票」（郵便局）による（用紙は事務局まで）  
口座番号 00150-3-356308  
加入者名 計装士会  
・賛助会員：別途銀行指定用紙による（用紙は事務局まで）

## 3. 住所変更等手続き

当会指定はがき：正会員は原則として「入会申込み書・住所等変更届はがき」に必要事項を記入し提出のこと。場合によりFAXでも可。

## 4. 退会手続き

当会を退会希望する場合は、必ず退会の届出・連絡が必要となります。下記の要領により事務局まで退会届を提出して下さい。

### (1) 退会届提出要領

- ① 当会指定の「入会申込み書・住所等変更届はがき」の右上空欄に退会届と明記して提出する。
- ② 当会指定の「届はがき」が手元にない場合は、必ず事務局までFAXか電話で退会の連絡をお願いします。
- ③ 会員本人が死亡などの場合は、事務局が連絡を受けた時点において受付・処理します。

### (2) 年会費納入義務

退会の場合は、必ず退会当該年度までの年会費納入を義務とし、当該年度末（3月31日）退会を原則とします。ただし、会員本人が死亡などの場合は、事務局が連絡を受けた時点までの納入会費で終了とします。

# 計装士会ホームページのお知らせ

付記：ホームページパスワード変更

追加：正会員のEメールアドレス登録について

計装士会 ホームページ分科会  
事務局

計装士会ホームページURLは下記のとおりです。

**URL <http://www.keisoshikai.gr.jp/>**

会員の皆様へのより早い情報の提供と対応、更に内容の充実を図って参りますので、多くの皆様方の活用とご意見をお聞かせ下さるようお願いいたします。

- 内 容：1. 計装士会事業活動状況・報告  
2. 会員コミュニケーション  
3. 研修会・見学会・勉強会の技術情報, その他  
4. 会員事務手続きおよび問合せ  
5. 各種案内（研修会・見学会・勉強会参加案内, その他）

お願い：計装士会は一般社団法人日本計装工業会とは別団体、別組織の運営・活動となっております。各種の問合せは等は間違いのないようにご注意ください。

ホームページ技術資料公開のパスワード変更（会員専用）

新パスワード：keisoshikai24

実 施 日：令和6年4月より実施

## <お願い>

平成22年10月より、会員の皆さんへ各種情報・お知らせ等を発信できるようになりました。下記のいずれかの方法で、皆さんのメールアドレスをお知らせ下さい。

- ①当会より定期的に送付される「払込取扱票」の通信欄のE-mail：の項に記入の上、会費振込時にお知らせ下さい。
- ②または、FAXにてお知らせください。（FAX：03-5846-9166）

## 【投稿募集】皆さんの投稿でより充実した会報に！

広報委員会

過去の通常総会において承認されました本年度の活動方針に「会報並びに各種技術情報の提供」が盛り込まれています。会員のための会報を提供するためには、より多くの会員の皆さんに参画していただき、連携して会報を作っていくことが重要です。

つきましては、下記のテーマで会員に役立つと思われる内容の記事（関連の写真があれば添付）を投稿いただきますようお願い申し上げます。

### <テーマ>

#### 1. 技術情報

日常業務の中で体験、調査・検討された作業改善、トラブル事例とその応用・改善等（現場作業での事例を特に歓迎します）

#### 2. 身近な情報

珍しい話題、行事

#### 3. 海外での特異な体験

#### 4. その他

多くの会員に役立ち、参考になると思われる情報

#### 5. デジカメデータまたは写真（JPG.）

撮影年月日、撮影対象、写真提供者名を明記

記事または表紙写真を採用の場合には、薄謝を進呈します。

### <原稿送付先>

〒101-0031

東京都千代田区東神田2丁目4-5 東神田堀商ビル 4階

一般社団法人日本計装工業会内

計装士会

Tel. 03-5846-9167 Fax. 03-5846-9166

なお、E-mailで送付される場合には、計装士会事務局まで、上記のTelにてご相談ください。当会メールアドレスをお知らせします。

計装士会事務局御中 変更届 (下記の該当□にレ点を付けてください)

住所変更届    その他変更届    退会届

計装士登録番号 \_\_\_\_\_ --- \_\_\_\_\_

御 <sup>ふ</sup>氏 <sup>り</sup>名 <sup>が</sup> <sup>な</sup> \_\_\_\_\_

御 住 所 〒 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

連絡先電話番号 \_\_\_\_\_

E-mail : \_\_\_\_\_

会 社 名 \_\_\_\_\_

部 署 名 \_\_\_\_\_

御 住 所 〒 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

会社連絡先電話 \_\_\_\_\_

通 信 欄 \_\_\_\_\_



---

---

### 広報委員会

|     |    |    |                 |
|-----|----|----|-----------------|
| 委員長 | 阿部 | 達也 | ジョンソンコントロールズ(株) |
| 委員  | 金子 | 啓市 | (株)関電工          |
| 委員  | 藤森 | 一  | アズビル(株)         |

---

|     |    |    |      |     |
|-----|----|----|------|-----|
| 事務局 | 片山 | 洋志 | 計装士会 | 事務局 |
|-----|----|----|------|-----|



ぼくは、  
計装士会  
マスコットの  
インスです。  
大きな耳で  
情報を集め、  
みなさんに技術・  
知識に関する情報を  
提供できたらと  
頑張っています。



## 計装士会の活動

- 技術向上へ向けた研修会・見学会・懇話会を全国で開催
- 会報・ホームページによる各種技術資料・情報を提供
- 社会的地位向上への活動

## 計装士会

〒101-0031 東京都千代田区東神田2丁目4-5 東神田堀商ビル4階  
一般社団法人日本計装工業会内  
Tel. 03-5846-9167 Fax. 03-5846-9166  
URL <http://www.keisoshikai.gr.jp/>